

## 建設系高校生による「～建設業に思いを込めて～」作文の部



### 最優秀賞



#### 「土木を通して学んだこと」

愛知県立岡崎工科高等学校 都市工学科 3年

日高 駿斗

私が都市工学科に入学した理由は、大工になるためでした。

当初、私は大工だった祖父の影響を受け、家を建築することに憧れを持っており、建築について学べる大学に進学実績のあった岡崎工科高校の都市工学科に入学することを決めました。入学からしばらくの間は自身の夢を叶えるために勉強に励んでいましたが、授業を受け続け、街や都市の構造を解き、様々な施設や機構がある理由について考え学んでいく度に土木への興味が大きくなりました。今は人々が暮らしていく街を創り、維持していく仕事に就きたいと思い勉強をしています。

そして、私が都市工学科で学んだことは四つあります。

一つ目は、土木がいかに社会を支えているかということです。入学以前は何が土木構造物かも分からずでしたが、都市工学科で授業を受けてからは、土木構造物がなければ電気や水道を使うどころか物の運搬や移動も難しく、それらを可能にさせる構造物と構造物を建設する人たちが社会を支えているのだと痛感しました。

二つ目は、段取りの大切さです。都市工学科では事前準備を段取りと称し、常に意識するようにして生活してきました。授業前に必要な教材を出しておくなどの些細な事や、資格試験に向けた準備などをあらかじめ終わらせておくことで、どんな時も不備不足がないよう努めてきました。ミスをおかじめ防げるこの習慣を社会に出てからも、忘れずに続けていきたいと思っています。

三つ目は、基礎を学ぶことの大切さです。どんなことも、基礎を学んでいなければ新しい技術をもった機械を扱うことができても、構造や仕組みを理解することができません。

四つ目は、目標をもつ大切さです。私は、今年愛知県で開かれた総合競技大会測量競技に出場しました。成績を残すために日々練習を重ねてきました。外で実際に測量を行う外業では、一連の作業の速さと精度を両立できるよう効率的な据え付けの動作を研究・実践し、視準線をプリズムに正確に合わせられるよう常に意識をしながら練習に取り組みました。測量結果をもとに精度を計算する内業では、電卓を打つスピードを速くし、簡単な計算は暗算で解けるように毎日計算練習するなど、内業・外業ともに点数をとれるよう練習を重ねてきました。東海大会に出場するという目標を強く意識し持ち続けていたことで、毎日の継続的な練習でもモチベーションを途切れさせることなくやり切ることが

できました。結果として大会を二位で通過し、八月に行われた東海大会でも、二位という成績を収めることができました。今回の大会を経て、何か物事を達成する際に明確な目標を立てて取り組むことの大切さを学ぶことができました。私が社会に出ても都市工学科で学んだことを忘れず、これらの学びをもとに新しい学びを自分で探したいと思っています。

私は今後、土木に関わる公務員に就きたいと考えています。その理由は、インターンシップです。インターンシップで私は市役所にお世話になりました。そこで私は、道路、河川、水道、橋など幅広い知識を持ち、私達に業務をわかりやすく説明して下さる市役所職員の方々の姿が格好良く感じ、私も様々な土木の知識で街を造り維持する人間になりたいと思ったからです。入学理由とは異なる職業を目指すことになりましたが、当時の思いのおかげで今、都市工学科で土木を学んでいる自分がいることを嬉しく思います。

そして、私は今まで専門教科を学び都市が多くの土木と土木技術者に支えられて建設されているかを知りました。日頃の授業、実習、インターンシップで得た土木の知識を通して、少しずつですが都市がどのように構築されているか理解できるようになってきました。また、得た知識で仕組みを理解していく体験は楽しく感じますが、その反面、専門教科の勉強は難しく感じる箇所も多く、テストの結果が振るわなかったことや特定の教科の苦手意識が消えず、勉強が進まないこともありました。しかし、将来、様々な災害の対策に取り組む仕事を志す者として今まで学んできた専門科目の知識に穴がないようにするため、これまでの学びを振り返り理解を深められるように、勉強に取り組んでいくと決意しています。

また、私は将来、土木技術者の公務員として、災害の対策に取り組めるような仕事をしたいと考えています。そのためか、現在学んでいる専門科目の内容を活かし、地域のハザードマップなどからその地域にどのような工事が必要なかを理解できるようになってきました。このような体験の数を増やしていき、将来、社会に貢献できる仕事をしていきたいと考えています。

## 建設系高校生による「～建設業に思いを込めて～」作文の部



### 優 秀 賞



#### 「製図で叶える地域振興」

愛知県立鶴城丘高等学校 総合学科 3年

沼田 呼杏

私の住む愛知県西尾市は、ド田舎です。ド田舎というフレーズを聞いてどんな町を想像しますか？自然が多い、住民が少ない、プラスなイメージの一方でマイナスなイメージをもつ人も多いのではないのでしょうか。私は、「これからどんな形にもなっていける街」、それがド田舎であり、ド田舎である西尾市に可能性を感じています。

現在、総合的な探求の授業で公園の製図作製に取り組んでいます。製図の題材となる公園は私が通う鶴城丘高校から歩いて、5分ほどのところにある「鶴城公園」です。この公園は、1956年に作られ70年間、地域住民から大切にされてきました。広さは、約1.3ヘクタールと広く、公園内には国の有形文化財にも登録されている岩瀬文庫、テニスコートなどが設置され、地域の皆さんに親しまれています。

私のやる気に火が付いたのは、現地調査に行ったときです。公園に入ると真っ先に、花時計が目飛び込んできました。平面に置かれた大きな時計の周りには、色とりどりのパンジーが綺麗に咲き、存在感がありました。また、遊具周辺の広場には親子連れが多く、少年が笑顔で遊んでいる姿が見られました。子どもたちの笑顔を守りたい！そう思い、私の製図作製へのモチベーションが一気に上がりました。公園の細かい部分にまで目をむけると、様々な課題も見られました。草花の葉や茎が伸びたままになっていて、害虫が多く、池の水も緑色に濁っていました。外灯が少ないため、夜は暗く、防犯面においても課題が挙げられました。そして、鶴城公園の課題をまとめると、自然が多いという良さが、管理不足により半減し、本来魅力であるはずの景観が失われている、という問題に気づくことができました。

これらの課題に対して私たちは「Nishio smile garden～人の集まる魅力的な空間へ～」というコンセプトで改善案を考えました。幅広い年齢層が利用できるよう、年齢別に、憩いゾーン、イルミネーションゾーン、水遊びゾーンなどとゾーニングを行い、それぞれのゾーンにあわせた、エクステリアや植物を配置しました。例えば、ペチュニアやパンジーなどで毛せん花壇をつくり、視覚的に明るいイメージを作ります。花壇に植える花は、管理のことも考えなければいけません。花期が長いものを選び、植え替えの時期を年2回の花に絞りました。花の種類を一つ決めるにも何

時間もかかり、とても苦勞しました。そして、各ゾーンには、防犯面、環境面を考慮し、エネルギー効率の高いLED照明を増やしました。これらの改善案により、それぞれの人がそれぞれの楽しみ方で過ごすことのできる居心地のいい空間を実現できると考えました。

6月には図書館の館長や公園緑地課の職員など4名をお招きして、中間発表会を行いました。職員の方々からは、「どの班も素晴らしい発表だった」と高評をいただきました。一方で、「樹木は在来種のものを使ってほしい。」「もっと高校生らしいアイデアがほしい」といった厳しいご意見もいただきました。何時間もかけて、行った製図が再スタートとなり、正直、心が折れそうでした。しかし、現地調査で見た少年の笑顔を思い出し、自分を奮起させ、もう一度、ゾーニングを見直しました。「訪れるすべての人々の笑顔があふれ、自然の美しさを取り入れた魅力的な公園」。それを実現するためはどうしたらいいのか考えました。その1つとして、子ども向けの遊具に自然素材のロッククライミングや木製のブランコを設置し、環境との調和をはかりました。さらに、花時計があるイルミネーションゾーンにデコレーションライトで夕方から夜にかけて美しく照らし、シンボルの花時計も魅力的に演出します。

現在は、平面図・アクソメ図を班で役割分担をして制作しています。色を塗っていく過程で今まで頭の中だけで、なんとなくイメージしていた公園が少しずつ形になっていき、ワクワクしています。

私はこの授業を通して、公園を創造することは、現在の課題を見つけ、それを元に具体的な改善案を提示する。そんな単純ではないのだと実感しました。私たちの生活は地域によって支えられています。その地域を作るのが、建設業です。私は将来、建設業に就き、今よりもっとより暮らしやすく、過ごしやすい街をつくりたい！

西尾という田舎の景観を守っていきたい！と思っています。西尾市も自然の多さを活かせば、多くの可能性が生まれるでしょう。

田舎と都会にはそれぞれの良さがあり、お互いを補い合うことで、今よりずっと暮らしやすくなる。ド田舎は見方を変えるだけで、光が差し込む場所。私はド田舎西尾の環境を守り、子どもたちの未来を輝かせます！